

(社)日本原子力学会 標準委員会 リスク専門部会
第94回 レベル1PRA分科会 議事録

1. 日時 第94回：2019年6月14日（金）13:30～16:15

2. 場所 電力中央研究所大手町地区 711会議室

3. 出席者

(出席委員) 高田主査, 桐本副主査, 橋本幹事, 石田, 岩谷, 喜多, 谷川, 佐藤(輝),
黒岩, 塩田(谷口代理), 小森(11名)
(常時参加者) 濱口, 藤崎, 根岸, 島崎, 佐藤(遼)(5名)

(敬称略)

4. 配布資料

- P4SC-94-1 第93回L1PRA分科会議事録(案)
- P4SC-94-2 人事について
- P4SC-94-3 停止時PRA標準制定版 転載許諾等への対応
- P4SC-94-4 L1PRA標準統合性能化案コメント対応一覧
- P4SC-94-5 内的事象L1PRA標準 統合性能化案

5. 議事内容

(1) 出席者/資料確認

委員11名が出席しており, 分科会成立に必要な定足数を満足している旨が報告された。また, 配布された資料が確認された。

(2) 第93回議事録の確認

資料P4SC-94-1を用いて第93回分科会の議事録を確認した。コメントがあれば連絡いただくこととし, 特になければそのまま正式版とすることとなった。

(3) 人事について

資料P4SC-94-2により, 小谷委員(原子力エンジニアリング)の退任と池田(芳)常時参加者(原子力エンジニアリング)の解除が報告された。また, 新たな委員として池田(芳)候補(原子力エンジニアリング)の選任, 常時参加者として不破候補(原子力エンジニアリング)の登録が承認された。

(4) 改定停止時 PRA 標準の発行について

資料 P4SC-94-3 により，制定されている改定停止時 PRA 標準の転載許諾と校正の対応の結果，リスク専門部会及び標準委員会において編集上の修正として承認され，発行準備に入ることが報告された。発行後に今年度の講習会を調整する。

(5) L1PRA 標準統合性能化 中間報告コメント対応について

資料 P4SC-94-4 及び P4SC-94-5 等により，L1PRA 標準統合性能化案の中間報告におけるリスク専門部会・標準委員会からのコメント対応について検討した。主な議論は次のとおり。

- ・米国 ASME/ANS 標準では個別の手法等に関する例示なども比較的多く，学会標準においてこれに対応する規定振りをどうするかが課題。ガイドとしてまとめるのは一つの方法。
- ・現行標準の記載内容はどこかに反映していく必要がある。一方，PRA としてあるべき姿を明確にしていくことも重要。位置づけを明確にして Code-Guide の構成とすることが考えられる。
- ・ガイドとすれば，内容の更新は比較的容易になるのではないか。また，現行標準での附属書は基本的にガイド又は技術レポートになろう。
- ・将来的に PRA ピアレビューにも適用することを考えると，単に合否判定だけではレビューのあり方として不十分になることも考えられる。また，Code-Guide とするならば，両方を参照してのレビューになるのではないか。
- ・学会標準のあり方からは，Code は「しなければならない」が基調であり，米国 ASME/ANS 標準のカテゴリ分けを取り込むのは難しいと考えられる。Guide であれば規定振りの自由度は広がると考えられる。
- ・今回議論を踏まえ，中間報告への対応方針のまとめと Code-Guide の構成検討を平行して行ない，次回分科会より試案などに基づき審議していく。電中研より HRA ガイドの報告書が公開となっているので，このような外部ガイドの参照も合わせて検討していく。また，今後のピアレビューへの対応としても ASME/ANS 標準との対応についてまとめておく。
- ・Code-Guide の規定振り検討においては，次の事項などにも留意する。
 - －「適用可能な範囲」「プラントの状態」「最確推定」「統合する」などの用語の扱い方と具体的内容の明確化。
 - －要求事項の明確化。文章のつながぎを用いると何が要求か不明確になる場合もある。
 - －使命時間 24 時間については米国での経緯を調査していく。

(6) スケジュール，その他

次回分科会は 7 月 26 日 PM，次々回は 8 月 28 日 PM の予定とし，策定スケジュールも適宜見直していく。また，別途コンプライアンスに関する同意書への確認・署名を事務局から委員まで連絡する。

以上